



僕の笑顔は、いやし系？

我が家の^{はやと}勇斗は7月で3歳、そして、お語りが始まり、よく笑いよく泣く^{まいか}舞華は、4か月になりました。毎日、2人とも元気一杯です。

勇斗は電車が大好きで、近くの踏切に、じいちゃんとかよく電車を見に出かけます。帰ってくると、「今日は貨物列車を見たよ！」などとうれしそうに教えてくれます。日々新しいことを覚え、昨日までできなかったことが突然できるようになったりと、驚くこともしばしばです。親バカですが、勇斗の笑顔は最高です。そんな兄を見て育つ舞華も笑顔を決やさぬ女の子になってほしいと思います。そんな2人の笑顔を大切に、そして今しか経験できない貴重な時間を、パパとママはこれからも、ゆっくりと見守りながら進んでいきたいと思っています。

松並一丁目 高橋優子さん 30歳



マイ・ガーデニング

ガーデニングで幸せ気分!

毎月ステキなお庭が紹介され、広報をいつも心待ちにしています。

我が家は庭が狭いので、プランターや鉢植えなどで四季折々の草花を楽しんでいます。部屋の中からも外からも見ることができ、とても心を和ませてくれます。今は少なくなったクロアゲハやモンシロチョウも花に誘われて時折姿を見せてくれます。朝の水やりとスズメに米粒をまくのが日課となり、この上ない幸せのいつときです。



冬から春暖の頃まで、青・黄・オレンジのパンジーが賑わっていましたが、今はインパチェンス、サフィニア、ペコニアなどが玄関先に彩りを添えています。子育ても終わり、これからは趣味としてガーデニングをやりたいと思っています。特にバラの花を庭一杯に咲かせることが私の夢です。

冬から春暖の頃まで、青・黄・オレンジのパンジーが賑わっていましたが、今はインパチェンス、サフィニア、ペコニアなどが玄関先に彩りを添えています。子育ても終わり、これからは趣味としてガーデニングをやりたいと思っています。特にバラの花を庭一杯に咲かせることが私の夢です。



平和町の小川みち子さん

KOGA 万華鏡

西川寧篆刻展

古河出身の篆刻家生井子華氏が師事したのが西川寧氏です。本年は西川氏生誕百年にあたる事から、西川氏を顕彰する行事が日本各地で開催されています。それらは書作品が展示の中心ですが、篆刻美術館では、篆刻を中心とした紹介をいたします。

東京教育大学その他で教鞭をとり、未開拓分野であった書道理論研究でも多くの後進を育成しています。

西川氏の書における原点は本人曰く、「六歳の時父にせがみ父の布字（刻す文字を右に書き込む事）した石を印刀で刻した事である」

長じて篆刻家河井荃廬氏に師事し、結果篆刻も当代一流となり、その成果が生井子華氏に受け継がれています。西川・生井両氏による師弟のやりとりは、理想の勉強法として篆刻を志す者の憧れとなっています。

本展では、生前を含め現在まで展示紹介されることのない西川氏の刻印が展示の中心です。生井篆刻の原点ともいえる西川氏の篆刻作品を主とし、今まであまり紹介されていない書作品、特に篆刻に欠くことのできない篆書作品も多数紹介致します。



生井子華氏の書齋名「五石齋」 西川寧書

陶を十分に受けています。三十代からは中国清朝の書家趙之謙に傾倒し、早くも独自の書風を確立し、昭和三十年に芸術院賞を受賞し、その後芸術院会員となり、昭和六十年には文化勲章を受章するなど、昭和を代表する書家です。

作家活動の一方で、慶應義塾大学・篆刻美術館館長 松村一徳